

(野口幹夫兄をモデルに)「肖像彫刻あれこれ」

清水健二

長く高津高校 5 期生によるホームページで交流を続けてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、人々の日常生活のみならず、仕事も対面による接触回避を強いられ、映像を介したテレワークへ転換し普及し始めた。

高津 5 期生がホームページの延長線状に、オンラインによる映像を利用した、新しい交流のあり方を発案してくれた知恵者のおかげで、「Kozoom28 サロン」が昨年夏からスタートした。私は誘われて 8 月から参加させていただいた。その結果国内各地に住まれている学友達と 70 年ぶりに対面する機会を持つことになった。

月 1 回の会合を重ねるうちに、映像に登場する友人達は長い年月を経て、好々爺、好々婆になり、年輪の深さと共に穏やかになり「皆んな いい顔になったな」と私は思った。

私は彫刻が趣味だったので、第一線を引いてから、美術協会に所属して仲間達と彫刻三昧の生活をしてきた。人物像を制作するときは、モデルを前にしてデッサンして進めるのが常套である。しかし Kozoom を介し映像で出会う友人をモデルに作品を造れるのではないかと思いついた。ミーティングの後はゆっくりビデオで見ながら表情を確認できるし、デッサンもやれそうだと、オンラインで肖像制作等今までやったこともないことに挑戦する気持ちが湧いてきた。

一般的に表情の硬い人の顔は、表情豊かな人より私は作り易く、見た通り制作すればいいからである。ところがちょっとした心の動きで表情が変化する人は、なかなかどの顔がその人を代表するのか定まらないから難かしい。しかし作者にすれば自由な発想ができるから作品は個性的なものに仕上げられるから楽しい。

そんなことを思いながら、Kozoom に登場するなかから野口幹夫兄を選んだ。映像を見ながらデッサンを始めたが、正面の顔は映し出されるが、横顔や背後からの頭部の形は全くわからない。平面彫刻のレリーフ(浮き彫り)なら問題ないが、立体造形となると奥行きが求められるので、野口兄に事情を話して協力を求め、自身の前後左右の頭部を撮った写真を送ってもらった。今年 2 月の頃である。

私の住む八尾市の前市長の胸像をかつて制作した時、市長の表情豊かで、きさくな人柄から市民にも人気があり自分の名刺や広報にも自画像のイラストを刷り込む方だった。私なりに特徴を強調して完成し作品を市美術展に出品した。多くの人から好評を得たのは、市民は日頃から見慣

れているので、少しデフォルメした方が却って作品として好感を持たれたし、市長本人からも喜んでいただきました。

同じ気持ちで野口兄の顔を制作しながら、私の好みで作り始めたが、独善的になってはいけないのではないかと思い始め、美術展に出品する予定だったので、「モデルはどなたですか？」と聞かれることが多く、題名は「学友 N 氏 (宇宙飛行士野口聡一氏の父)」と書けば良いと思ったものの、よくよく考えれば、鑑賞向けに奇をてらう作品にはできないなと。「これが、あの宇宙士の親父か」となるとは、野口兄に申し訳ないと、色々忖度しながら、身だしなみも良く、きちんとネクタイをしめ、年寄くさくなく、しかし歳相応で優しい顔立ちであらねばならないと、少しづつ是正することにした。

オンラインで肖像制作に挑戦したからはやり通したい。うまく行かなくともそれはそれで得るところはあるだろう、と諦めずに制作し続けた。しかし最後まで苦労したのは、映像ではシワの深さが読めず、また比較する人がそばにいないので大きな顔立ちなのか、小さいのか、体とのバランス等を掴めず試行錯誤しながら制作する困難さを知ることになった。結局過去に制作した経験から標準の大きさで仕上げることにした。

コロナ禍のため美術展の開催が不透明だったが、幸い大阪市立美術館（旧 天王寺美術館）で事前申し込んでいた9月下旬の日程で予定通り開催することができた。絵画と彫刻で約150点の作品展示で予想していた以上の来場者となった。



私の作品について、多くの意見や批判を頂戴したが、専門的な細部のことはさておいて、「力強い作品ですね」とか「モデルの人は優しそうで上品な風貌ですね」と褒め言葉を多く頂いた。私は最後まで「映像だけで一度も会うこともなく制作したテレワークです」と言えなかった。心では野口兄に一度は会っておけば、自分なりに納得できていただろうと反省はしているが、いつも満足した作品なんてないんだから、今回はテレワークに挑戦した結果だから、良しとしようと自画自賛している。

出品作品は先日、野口兄に記念に進呈した。作品は歳はとらないので時々眺めて老けないで頑張ってもらえば幸いである。

最後に大阪を離れて長くなった友人達に、天王寺美術館から見える、あべのハルカスや振り返って美術館を背にして、動物園と通天閣等の見える写真を撮ってきました。昔とは見違えるような景色に変わり茶臼山や池の周りも整備されて、ブルーシートの住まいや、路上カラオケ軍団も全くなくなりました。インバウンドで観光客を受け入れる行政の図らいで、大阪らしい下町の風情は薄れてしまいましたが、じゃんじゃん横丁はそのまま存在しています。

完



美術館正面とあべのハルカス
動物園と通天閣を望む



